

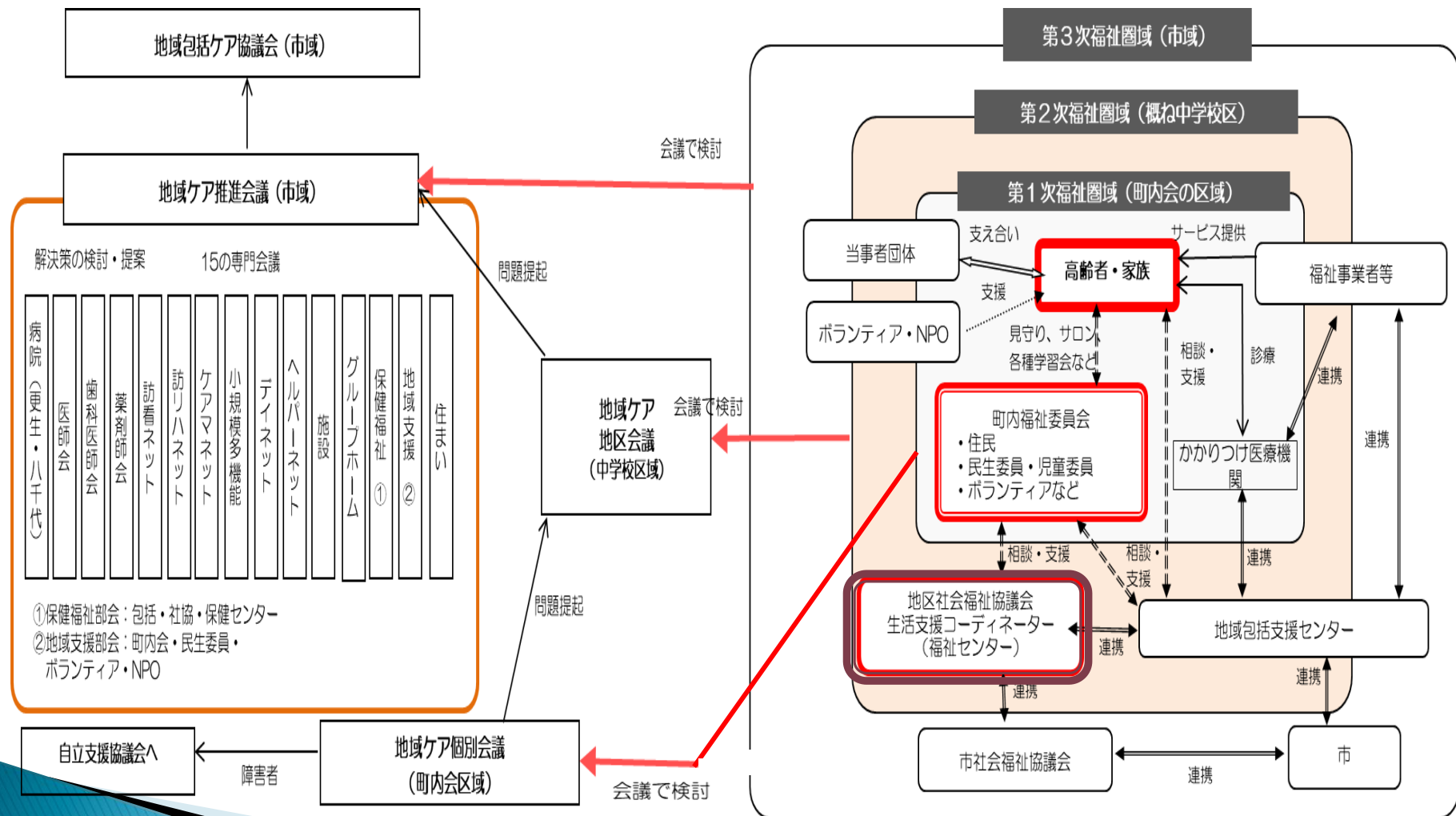
地域ケア推進会議(R3.5.20)

地域福祉活動と生活支援コーディネーター

～社会福祉法人と連携した取り組み紹介～

社会福祉法人安城市社会福祉協議会
地域福祉課 地域福祉係長 平田清美

『安城市版地域包括ケアシステム』



生活支援コーディネーター・各地区担当職員は

**「住民が主役」の地域の支え合い
が充実するようサポートします。**

**住民の自主的な活動
（見守り活動など）**



支える



支える



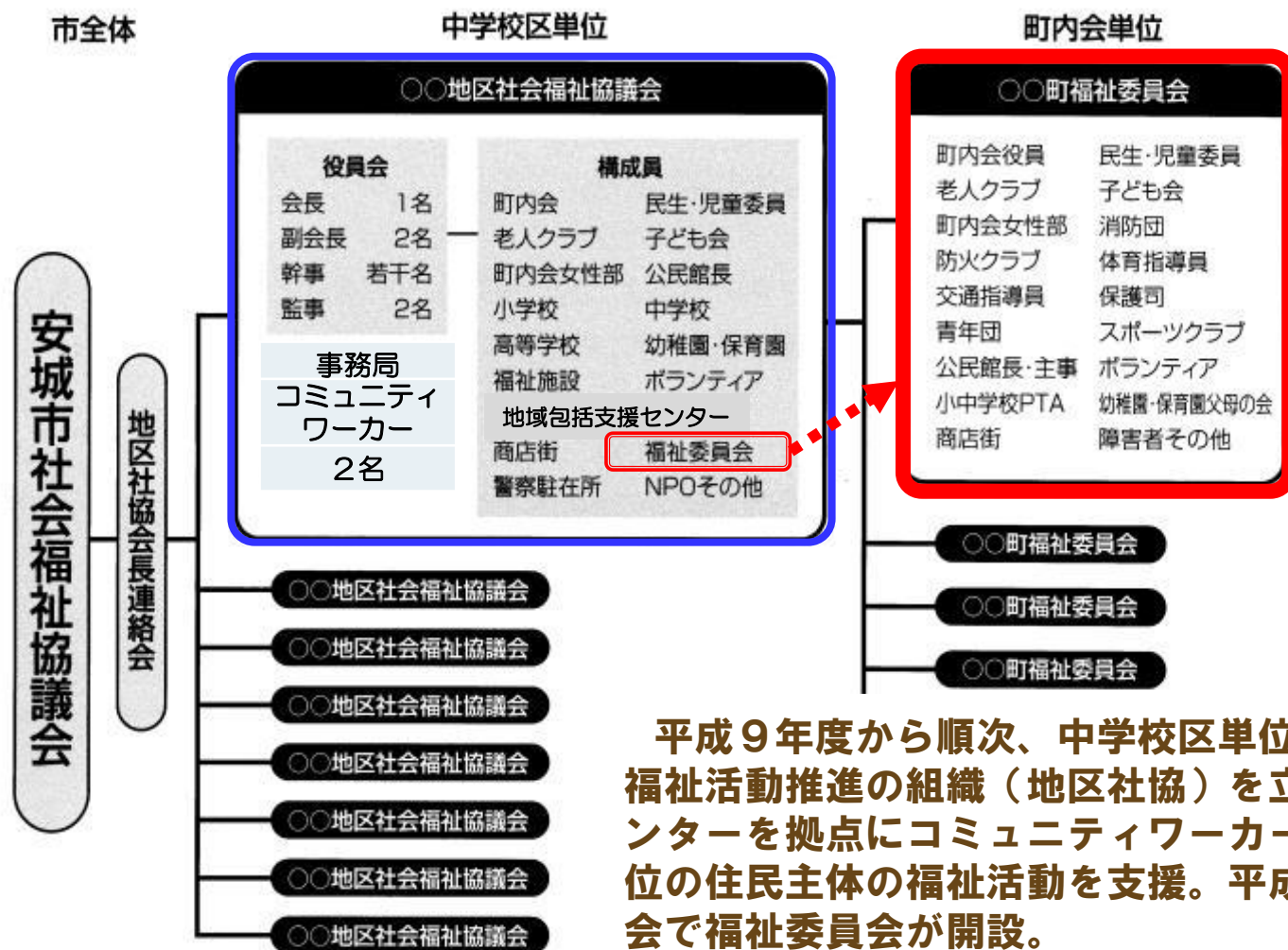
**専門職の連携
（医療・介護・福祉関係者等）**

組織づくり
や活動の
支援

ネットワークづ
くり・連携支援

安城市社協と地域福祉活動の取組み

安城市における市社協、地区社協、福祉委員会の関係図



町内福祉委員会について(1)

主な役割

地域の困りごとを発見し、地域の中で解決されるよう話し合い、地域住民が安心して暮らせるまちづくりをするための推進役

1. 困りごと(ニーズ)の発見

2. つなぎ役

3. 環境づくり

町内福祉委員会について(2)

主な活動

- ①見守り活動
- ②見守りが必要な人への個別支援
- ③まちの安心と安全を守る取組み
- ④学習活動
- ⑤広報・啓発活動
- ⑥地域の絆を深める活動

生活支援コーディネーターの目的・役割

目的

地区ごとに関係者のネットワークや既存の取り組み・組織等も活用しながら、**高齢者の生活支援・介護予防サービスの提供体制の整備に向けた取り組みを推進する。**

役割

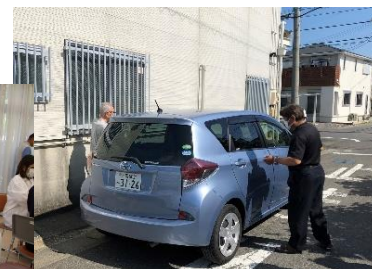
- ①資源開発
- ②関係者のネットワーク化
- ③地域の支援ニーズとサービス提供主体のマッチング

①資源開発

取り組み事例 町内のお助け隊発足と継続支援

作野地区の場合

- ・地域の実情を踏まえ福祉講演会を企画開催
- ・講演会で共感した住民の声を受け活動視察を調整実施
- ・地区内での活動検討(組織体制の整備)
- ・ニーズの調査・収集・連絡調整支援
- ・活動の発足支援、継続支援



②ネットワークの構築

取り組み事例 社会福祉法人間の連携推進

中部地区の場合

- ・地域における公益的な取り組みについて事業所間で情報交換できる場の設定
- ・地域の課題や取り組みの情報共有
- ・事業所で協力可能な取り組みについて情報共有し、具体案を提言
- ・地域ニーズとの調整
- ・地域ニーズに対応した取り組みの実施支援



③地域ニーズとサービス提供主体のマッチング 取り組み事例

買い物困難者と各種取り組みとのマッチング

中部地区の場合

- ・地域でのニーズ把握

(例 移動手段や注文したことを

忘れる等買い物に関する困りごと)

- ・地域でのニーズの共有や対応の検討

- ・ニーズに応じた取り組みの提案や

マッチング(移動販売車、宅配サービス

(協力店、コープ等)、買い物送迎支援事業

等の利用の提案・調整)



◎取り組み事例 社会福祉法人との連携 アイノリミスズ(お出かけ支援事業)①

【経過】

- ▶ 協議体開催。中部地区ではH30年から地区内の社会福祉法人(7法人)を対象に生活支援ネットワーク会議を継続的に開催。
- ▶ 「社会福祉法人等による地域における公益的な取組み」について、互いの取組み状況や今後の取組みのための情報交換を重ね、当初は「共生型サロン」の取組みを検討。コロナ禍により生活支援に視点を切り替え、「買い物支援」についての協力提案をいただいた。
- ▶ 社会福祉法人観寿々会、中部包括支援センター、中部地区社協生活支援コーディネーターで具体的な仕組みづくりに取組み、アイノリミスズ(お出かけ支援事業)がR2年9月から
スタート。

アイノリミスズ(お出かけ支援事業)②

目的

- ・ 店舗まで行くことができない高齢者を店舗まで送迎し、必要な買い物が自分でできる。
- ・ 一連の行為や買い物を通して介護予防につなげる。



アイノリミスズ(お出かけ支援事業)③

利用対象者

以下のいずれかに該当する別所団地町内会の
見守り推進委員会による見守り対象者

- ①一人暮らし高齢者
- ②運転免許証を返納された人
- ③親族などによる支援を受けられない人

地域

別所団地町内会区域

※今後ニーズに応じて他町への拡充も検討

内容

毎週水曜日運行

別所団地町内会区域内とイトーヨーカドーの往復

※店舗は利用者の希望により決定

アイノリミスズ(お出かけ支援事業)④

役割分担

観寿々会

- ・送迎にかかる全て(車輛、運転手、送迎、検温、荷物の積み下ろしなど)

別所団地 町内会福 祉委員会

- ・参加者のとりまとめ(毎週)
- ・生活支援コーディネーターへ参加者の申込依頼(毎週)

生活支援 コーディネーター

- ・観寿々会への参加者の申込依頼(毎週)
- ・送迎当日の立ち会い(主に集合時)
- ・ボランティア団体登録の加入手続き(年1回)
- ・ボランティア行事用保険加入手続き(毎月)
- ・安城市の対象補助金の申請手続き(年1回)

アイノリミスズ(お出かけ支援事業)⑤

利用状況

登録者11名。毎回6~8名参加。

利用者の声

- ・ このお出かけを通して「みんなに会えるのがうれしい。」
「14時30分までに集まって、みんなでおしゃべりする時間がいい。」
- ・ 「楽しみがあるから、目的があるから歩けちゃう。」
- ・ 「とにかく感謝しかない。」
- ・ いつもはこんなにゆっくり選べないから、色々あってとても嬉しい。

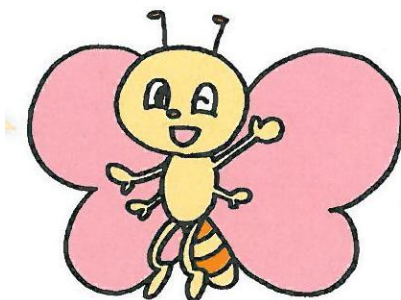
支援者の声

- ・ 役に立っていることが確認できたので継続して実施していく。
- ・ 道中の車内で「服を試着する時間がほしい」と声があった。生の声を聞き、次の展開へと進めていけたらと考える。
- ・ 希望に対し全てやりすぎるのではなく、長く続けていけるようにできたらと思う。

アイノリミスズ(お出かけ支援事業)⑥

今後の展開

- ・ 現在は、観寿々会1法人で取り組んでいるが、当初の他法人と連携した共生型サロンをはじめ、R3年度以降も連携した取り組みを検討していく。
- ・ アイノリミスズの利用者について、障がいのある人への拡がりを視野にいれており、今後の検討課題としている。



安城市社協キャラクター
ハートン